

2023年3月5日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第65巻第46号(通算3328号)  
教会設立 1959年6月14日

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま ひと とち  
神様がすべての人と共に  
あかし きょうかい  
ことを証ししていく教会



〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

丈夫な人には医者はいらないが、具合の悪い人には、必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

じゆなんせつ だい しゅじつれいはい  
**レント(受難節) 第2主日礼拝**

れいはい  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前 奏(黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば ふくいんしよ しやう せつ  
招きの詞 ヨハネによる福音書 1章 4-5節

はじめの詞

さんび か ばん にな じゅうじか せつ  
賛美歌 21-305番「イエスの担った十字架は」(1-2節)(©JASRAC)

しょうとう ことば  
消灯の詞

さんび か ばん きやうだんさんびかかいていいんかい  
賛美歌 21-299番「うつりゆく世にも」(©教団讃美歌改訂委員会)

せいしょ せいき しょう せつ  
聖 書 創世記 6章 5-22節

いの  
お 祈り

さんび か ばん わたし い  
賛美歌 21-426番「私たちを生かす」(©JASRAC)

メッセージ 「それでも、最後に残るもの」 牛田 匡 牧師

さんび か ばん ばん  
賛美歌 21-306番「あなたもそこにいたのか」(©P.D.)

ユーカリスト せい さんび か ばん  
聖 餐 牛田 匡 牧師

きやうどう いの さんびか ばん な ちよさくけんしやうめつ  
共同の祈りと『讃美歌21』524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅ いの こうどくぶん しゅ いの  
主の祈り(交読文による主の祈り)

きさげもの  
献 げ 物 (\*\*)

は け ばん かみ めぐ う せつ  
派 遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅく ふく うしだ ただし ぼくし  
祝 福 牛田 匡 牧師

こう そう ばん ちよさくけんしやうめつ  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番)(©著作権消滅)

ほう こ ページ さんしやう  
報 告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

うけつけ けんきんばこ ようい かた ささ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 ヨハネによる福音書 1章 4-5節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>4</sup>言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった。

<sup>5</sup>光は闇の中で輝いている。闇は<sup>a</sup>光に勝たなかった。

(脚注 a: 直訳「光を捕えなかった」、別訳「光を理解しなかった」)

消灯の詞 (参照: ヨハネによる福音書 1章 34節)

司式者 バプテスマのヨハネは、イエス様を指さして言いました。

みんな 「この方こそ神の子である」と。

司式者 光が世に来たのに、人々は光よりも闇のほうを好みました。

聖書 創世記 6章 5-22節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>5</sup>主は、地上に人の悪がはびこり、その心に計ることが常に悪に傾くのを見て、<sup>6</sup>地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。<sup>7</sup>主は言われた。「私は、創造した人を地の面から消し去る。人をはじめとして、家畜、<sup>は</sup>この鳥までも。私はこれらを造ったことを悔やむ。」<sup>8</sup>だが、ノアは主の目に適う者であった。

<sup>9</sup>ノアの歴史は次のとおりである。その時代の中で、ノアは正しく、かつ全き人であった。神と共に歩んだのがノアであった。<sup>10</sup>ノアは三人の息子、セムとハムとヤフェトをもうけた。<sup>11</sup>だが、地は神の前に腐敗していた。地は暴虐に満ちていた。<sup>12</sup>神が地を見られると、確かに地は腐敗していた。すべての肉なる者が、地上でその道を腐敗させたからである。

<sup>13</sup>神はノアに言われた。「すべての肉なるものの終わりが、私の前に来ている。彼らのゆえに地は暴虐で満ちているからである。今こそ、私は地と共に彼らを滅ぼす。<sup>14</sup>あなたはゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を設け、内側にも外側にもタールを塗りなさい。<sup>15</sup>その造り方は次のとおりである。箱舟の長さは三百アンマ、幅は五十アンマ、高さは三十アンマ。<sup>16</sup>箱舟には<sup>b</sup>屋根を造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の戸口は横側に付けなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。<sup>17</sup>私は今こそ、地上に大洪水をもたらす。命の息のあるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすためである。こうして地にあるすべてのものは息絶える。<sup>18</sup>だが、私はあなたと契約を立てる。あなたは、息子たち、妻、息子の妻たちと一緒に箱舟に入りなさい。<sup>19</sup>また、あらゆる生き物、すべての肉なるものの中から、二匹ずつを箱舟に入れなさい。あなたと共に生きるためである。それらは雄と雌でなければならない。<sup>20</sup>それぞれの種類の鳥、それぞれの種類の家畜、それぞれの種類の地を這うあらゆるもの、すべてが二匹ずつ、生き残るためにあなたのもとへとやって来る。<sup>21</sup>あなたは食べることのできるあらゆるものを自分のもとに集めなさい。それがあなたと彼らの食物となる。」<sup>22</sup>ノアはすべて神が命じられたとおりに行い、そのように実行した。(脚注 b: 別訳「窓」)

《先週のメッセージより》2023年2月26日

「その実を食べたのなら……」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 創世記 3章 1-7節

最も「賢い」(創3:1)生き物でありながら、人間の女性を「だました」(13)ことによって、最も「呪われる」(14)こととなった蛇。人間世界に罪をもたらした悪者。だけど、蛇がもたらしたのは、罪だけではない。食べてはならない、と言われていた木の実を食べたことによって、人は「裸であることを知り」、エデンの園を追放される。人間を追放させるときに神が語る言葉(3:22)は、女性がその実に手を伸ばす前に、蛇が語ったこと(3:4)と全く同じ。その後、人間の男性アダムは、女性であり妻であるエバを「知り」、エバは「身ごもってカインを産んだ」(4:1)。古代イスラエルの人々にとって、神からの最大の祝福は「産めよ、増えよ、地に満ちよ」であった(例.創1:28)。蛇と神の言葉が全く同じであり、その言葉をきっかけに、人間の男女が互いを「知って」、子どもを産むことになったということは、蛇が語ったのは、人間の性についての真実、性を通してもたらされる神の祝福についての真実だったと言える。

蛇は「最も呪われ」た生き物であり続けている。真実を語ることによって嫌われる。蛇だけではない。人間の世界でも、性のことに限らず、自分自身に真実であり、その真実に生きようとして、一生懸命になりながらも、却ってそれが故に社会に拒まれ、生きにくさを抱える人たちがいる。女性。セクシュアルマイノリティ。家族を形成しない、子どもを持たないという選択をした人。外国籍の方。日本国籍を持ちながらも外国にルーツを持つ在日の韓国／朝鮮の人。薬物／アルコール／ギャンブルなどの依存症の方、HIV陽性者、障害を持った人、など。わたしたちは「社会常識ではこうだから」という理由で、また「聖書にこう書いているから」という理由で、自分自身を含め、誰かにレッテルを貼り、その人たちが真実に生きることをできにくくしてしまうことがある。そんなわたしたちのただ中に、イエスは人として生まれた。人と出会い、食事を共にされ、喜び、悲しみ、苦しみを隣人と共有し、徴税人、異邦人、漁師、女性、子どもなど出会った一人ひとりが、その人の真実に生きることを良しとされたイエス。わたしたち一人ひとりが、自分自身の真実に生きる。そして、真実に生きることに苦しさを覚えている人の側にいて伴走する。隣にいる人の涙に目を向け、嗚咽の声に耳を傾け、心の叫びに身体を沿えるために、聖書の一つの記述、一つの読み、一つの解釈を優先させるのではなく、新しく捉え直す。真実を伝えることによって、呪われ、忌み嫌われる生き物とされた蛇を、イエスは忘れていない。イエスの足跡とともに、蛇の跡をたどる時、一人ひとりが各々の真実に生きることを良しとする、神様の愛の痕跡を、見つけることができる。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

YouTube



Facebook



LINE 公式アカウント



### ◎ 先週の報告 2月26日 受難節第1主日礼拝

主日礼拝出席 大人6名 こども3名 中継動画再生数4回  
献金 大人5,000円 こども0円 感謝

礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり支援」を行い、179個(58合)のおにぎりを作って、いこい食堂にお届けして、四角公園にてお渡しいたしました。

### ◎次週 2023年3月12日(日) 受難節第3主日礼拝

(今年の「レント」(受難節・四旬節)は2/22~4/8です。レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかを考える時です)

招きの詞 詩編 95編 1-3節

聖書 出エジプト記 17章 1-7節

メッセージ 「岩を打つ。水が出る。」岡嶋千宙伝道師

賛美歌 21-467番(©P.D.)、21-306番(©P.D.)、21-526番(©P.D.)、

礼拝はインターネットで中継いたします。

### ◎お知らせ

- ・大阪府の新型コロナ警戒信号は、「黄色」→「緑色」に変更されましたが、感染症予防には引き続き注意して、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・本日、礼拝後に3月期の「教会を考える会」を行います。主な議案は、2月までの教勢報告、3月以降、次年度の教会行事予定などです。どなたでもご出席ください。
- ・3月11日(土)14時~16時にかけて、大阪教区災害対策特別委員会主催の「3.11震災12周年を覚える集い」が開催されます。大阪教区総会議長による礼拝の後、「東北教区放射能問題支援対策室いずみの働き~これまでとこれから~」の発題が

いずみ運営委員長の布田秀治さんよりあります。今回はZOOMによるオンライン配信のみとなります。事前申し込みは不要で、ミーティングID:878 4494 4583  
パスコード:634690 を直接入力してご参加ください。

下記のQRコードをスキャンして頂いてご参加頂けます。



### ◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
3/12	岡嶋伝道師	
3/19	牛田牧師	
3/26	水谷牧師	誕生者祝福式・おにぎり支援
4/2	岡嶋伝道師	ユーカリスト・教会を考える会



日本基督教団大阪教区 災害対策特別委員会 主催

### “3.11震災12周年を覚える集い”

日時:2023年3月11日(土)午後2時~午後4時

会場:大阪クリスチャンセンター 小礼拝堂  
大阪市中央区玉造2-26-47

問合せ 教区事務所 06-6761-8562  
災害対策特別委員長 宮川経史 0743-52-5297 (大和郡山教会)

礼拝 説教 尾島信之総会議長(南大阪教会牧師、大阪教区総会議長)  
発題 『東北教区放射能問題支援対策室いずみの働き  
~これまでとこれから~』  
布田秀治さん(東北教区総会議長・いずみ運営委員長)

※今回はコロナ禍であるため、Zoomによる発信とします。  
会場へのご来会はお控えください。  
Zoomによる礼拝・発題に出席されたい方は教区事務所まで  
お申込みください。(申込なしで、下記のIDとパスワードでの参加も可能です)

■ZOOM参加■

ミーティング ID: 878 4494 4583

パスワード: 634690



大阪教区では、これまで毎年「東日本大震災3月11日」を覚えつつ、皆さまと共に祈りを合わせる時を持ってきました。  
関西三教区(京都・兵庫・大阪)は、東北教区被災者支援センターエマオ(仙台)・石巻エマオを中心にボランティア派遣を続け、大阪教区は山崎医師を被災地に派遣してきました。東日本大震災からもうすぐ12年。この節目において、あの震災の出来事が風化されないように。また、大規模な災害に対して、何が十分な備えであるのかという教訓が生かされるように、礼拝をささげ、祈りを共にし、大規模災害時に発生した東北教区の放射能問題のこれまでとこれからの対策について重要な発題をお聞きし、学びを深めたいと思います。

多くの方々のZoom参加をお待ちしています。